 特集 800号記念特集

 順天堂医学, 2005, 51
 P. 479~481

 順天堂医学会と医学部同窓会,
 その変遷

 森 近 浩*
 KOH MORICHIKA

昭和29年4月28日, 順天堂医学会が創設された。順天堂が病院診療体系から医科系大学としての研究・診療・教育体制に大きく転換・移行した時期でもある。その2年前に昭和27年6月21日順天堂医院同窓会(有山 登会長—当時 学長)と同年7月19日 順天堂大学医学部同窓会(昭和32年 発足—渡辺 哲男会長・高田 道夫副会長)の前身である順天堂医科大学同窓会(有山 登会長)がすでに発足していたが, この医学会の創設が両会員にとって, 医学の研究を通して医学の進歩に貢献し, また会員相互の学識高揚をはかれる最初の機会にもなったのである。

当初, 順天堂医学会は有山 登会長のもと評議員・監事は会長が委嘱し, 運営委員は評議員の互選, 参与は運営委員が推挙し会長が委嘱し, 任期は1年であった。その役員の構成メンバーは基礎系・臨床系の各科の教授で占められた。順天堂医学会総会は毎年11月の第2, あるいは第3土曜日の午後1時より5号館3階講堂(現会議室)で, 国内・外の学会報告・研究発表や, CPCが行われた。例会は3月と8月を除く毎月木曜日午後4時より2時間, 各講座(教室)が輪番で担当し, その講座の研究経過や論文が紹介され, 症例検討会も行われた。『順天堂医学』(昭和30年1月初刊 小川 鼎三編集責任者—当時, 解剖学教室客員教授・実務担当 上條 清明参与—当時, 細

菌学助教授, 後に教授)は順天堂大学としての研究, 主として論文などを記録し保存する機関誌として登場したのである。昭和32年7月4日, 順天堂医科大学学位規定(旧学位制度)が認可され, 渡辺 紋郎・山野井 達也・浅野 嘉雄の3氏が, はじめて博士学位授与されて以降, 昭和36年3月31日(旧学位制度の最終期日)まで 同窓生を含む405名の論文がこの機関誌に収められている。

以上のこともあり, この間の医学会総会・例会の演題は大半の同窓生の症例報告・研究報告・学会発表予行や論文発表で锦上添花を添えたが, 内容が専門分野にかたよる傾向にあり, 参加者が少なく会員数の増加も望めないため, 医学会をもちたててのための演題内容・開催日・曜日や時間などが検討された。医学会総会終了後の午後5時より医学部同窓会総会を, また午後6時より医学会と医学部同窓会合同の懇親会が開催されたのもその苦肉の策である。昭和34年11月, 渡辺 哲男医学部同窓会会長が医学会評議員に指名される。第10回医学会総会(昭和40年11月)では, 医学会の運営を円滑にするため, 評議員・運営委員・参与・監事の任期を1年から2年にし, 同窓生から川北 祐幸・長瀬 勝也・深沢 義村・吉井 恒雄の4氏が評議員に推薦された。昭和46年11月には体育学部設置20周年での, 独自の新研究体制(昭和46年4月体育学部大学院増設)確立から, 順天堂医学会は名誉会長に学長を, 会長に医学部長を, 評議員は1)教授・助教授から選挙で10名 2)会長推薦 5名 3)同窓会推薦(少なくとも

*順天堂医学編集委員会顧問

順天堂大学医学部同窓会副会長

お茶の水相互クリニック院長

[Aug. 19, 2005 原稿受領]

学外2名)5名の計20名と役員構成がかわり、現在の選出方法となった。同窓会からも教授・助教授に就任し、ときには1)の項で選出したものを含め評議員の半数以上が同窓生であった。

医学部同窓会活動が活発になったのは医学部同窓会会則改正(昭和50年10月)で、全国の支部設置や代議員制度が導入され、はじめて会長選挙が行われた昭和50年11月以降である。秋山 晃一郎氏が同窓会会長に選出され、医学会総会でその副会長に指名された。この時より医学会の副会長には同窓生の指名が慣例となった。現在まで秋山 晃一郎(～昭和57年12月)・長峰 敏治(昭和58年1月～)・高田 道夫(昭和60年1月～)・平野 重明(平成3年1月～)・高田 道夫(平成5年1月～)・森近 浩(平成7年1月

～)・桑原 紀之(平成11年1月～)・乾 道夫(平成17年1月～)の同窓生諸氏が医学会の副会長を務めている。学術集会の年4回のうち1回は11月の順天堂医学会総会終了後、医学部同窓会が主催することになった。

機熟して昭和55年11月の第215回学術集会は秋山 晃一郎実行委員長長の『興味ある臨床症例をめぐって』を皮切りに当時最新の医学情報やトピックスをテーマに、卒後教育・生涯教育としても行われた。実行委員長や医学部同窓会学術担当理事、また医学会の副会長・評議員や編集委員の同窓生が年4～5回集合し、コ・メディカルの方も参加しうようシンポジウムやフォーラム形式をとり入れ、また特別講演をも企画された(表-1)。そのうえ、『順天堂医学』25巻4号(昭和54年12

表-1 同窓会主催「学術集会」一覧

第215回(S.55)	興味ある臨床症例をめぐって	(秋山 晃一郎)
第219回(S.56)	肥満	(高田 道夫)
第223回(S.57)	悪性腫瘍の画像診断	(長瀬 勝也)
第227回(S.58)	心身症の今日の課題	(下坂 幸三)
第231回(S.59)	高齢化と医療	(森近 浩)
第235回(S.60)	救急医療	(百瀬 隆人)
第239回(S.61)	高齢者における外科的治療の問題点	(村松 正久)
第243回(S.62)	輸血と血液製剤の現況とその問題点	(大内 達男)
第247回(S.63)	局所からみた全身病態の解析	(橋本 博史)
第251回(H.01)	最近の臨床検査、その意義と限界	(林 康之*)
第255回(H.02)	高齢者医療をめぐる諸問題	(森近 浩)
第259回(H.03)	癌性疼痛管理	(宮崎 東洋)
第263回(H.04)	内視眼—最近の進歩	(桑原 紀之)
第267回(H.05)	肝疾患の治療：最近の進歩	(飯島 克巳)
第271回(H.06)	糖尿病—今日の考え方	(山城 雄一郎)
第275回(H.07)	骨粗鬆症をめぐって	(猪狩 淳)
第279回(H.08)	消化器疾患：最近のトピックス	(渡辺 純夫)
第283回(H.09)	順天堂大学医師会産業医研修会	
第287回(H.10)	今、注目の介護保険	(師岡 正年)
第291回(H.11)	同窓50周年—記念講演	(青木 誠孝)
第294回(H.12)	アルツハイマー病医療の最前線	(新井 平伊)
第297回(H.13)	診療・研究の最前線	(長岡 功)
第300回(H.14)	診療・研究の最前線(Ⅱ)	(長岡 功, 新井 平伊)
第303回(H.15)	診療・研究の最前線(Ⅲ)	(長岡 功, 岡田 隆夫)
第306回(H.16)	医学研究のup-to-date	(長岡 功)

() 内は実行委員長

*同窓会特別会員

月発行)より37巻1号(平成3年4月発行)まで毎号掲載された順天堂医療関係者の鉄道沿線案内図は、医学部同窓会の積極的な参加で順天堂医学会の活性化につながり、臨床医学研究の拡大や会員相互の高度医療に大きく貢献した。順天堂大学父兄会・後援会をも動員した医学部同窓会会員の協力の賜である。これは昭和54年7月26日 榎林 博太郎教授(当時 順天堂医学編集委員)の発案で企画され 大場 忠太郎(当時 総務部文書課主任)・大塚 史朗両氏が実務担当し、第1回の東武東上線からはじまり、北は北海道から南は沖縄まで42回にわたって『順天堂医学』に添付されたのである。全国順天堂医療関係者の医療連携の基本構想でもあった。

また、同窓生を含め順天堂大学医師会会員の要望も取り入れ、平成8年10月1日労働安全衛生法改正による産業医の選任義務に関して第283回(平成9年11月)『産業医研究会』として東京都医師会・順天堂大学医師会が主催、順天堂医学会・順天堂大学医学部同窓会が協賛し、第287回(平成10年11月)平成12年4月よりの介護保険制度の施行にともない、『今、注目の介護保険』をテーマに学術集会も行われた。

この間、順天堂大学内の研究や診療から得られる知識を都民に公開し、理解してもらうために小川 秀興会長(当時 医学部長・現理事長・学長)を中心に“都民公開講座”が企画された。順天堂大学医学部が主催し、順天堂医学会・順天堂大学医師会・順天堂大学医学部同窓会・順天堂大学スポーツ健康科学部・順天堂医療短期大学(現医療看護学部)が共催、東京都・東京都医師会後援で平成10年6月27日『糖尿病と付き合う』と題し有山記念講堂に360名の都民を集め、はじめて都民公開講座が行われた。好評でそれ以降現在までうけつがれている。

第291回は『同窓50周年』で、小川 秀興会長が“医学部の現況”を、酒井 シズ教授“順天堂

大学誕生秘話”，石井 晶三理事長“順天堂の将来”と題し記念講演された。都民公開講座が年2回開催されるようになった関係上、学術集会は年3回となったが、医学部同窓会主催の例会は従来通り年1回が恒例となり、第294回は医学会総会后『アルツハイマー病,医療の最前線』が行われた。

第297回以降は 医学部同窓会が昭和53年からはじめた学術奨励制度(医学研究や医療に従事し、順天堂大学および同窓会の発展に寄与する卒業20年前後の)、また平成11年に導入された海外留学助成制度(海外留学に際し、所属機関や留学先の研究機関からの給与支給がなく、かつ研究財団などの援助がないため、自費留学を余儀なくされた前途有望な卒業後10年前後の医学部同窓会正会員)による受賞記念講演、助成金受領者の研究内容が、また各年度の新就任教授の研究業績が披露される集会に変わった。

この順天堂医学会の機関誌である『順天堂医学』の編集責任には 故小川 鼎三教授『解剖学・医史学』が初巻から、福田 芳郎名誉教授(当時 病理学第一講座教授)が30巻2号(昭和59年6月)から、稲葉 裕教授(衛生学講座)が37巻1号(平成3年4月)から委員長を歴任されたが、48巻4号(平成15年3月)からは同窓生としてはじめて須田 耕一教授(病理学第一講座)が就任し、平成16年5月よりは医学部同窓会副会長としてもその重責を果たしている。また医学会の名誉会員には評議員会が認めた者、および順天堂大学名誉教授となった者と規定されているが、名誉教授を除き、今井 正男元医学部同窓会会長と曲谷 久雄元順天堂医学編集委員(いずれも故人)が、現在 平野 重明元医学部同窓会会長、森近 浩・平井 慶徳元順天堂医学編集委員が名を連ねている。いずれにしても順天堂医学会の充実と発展は、順天堂大学の繁栄につながり、その大多数を占める医学部同窓会会員のたゆまぬ努力と協力が必要である。